Ⅳ　平成 18 年度の主要な事業動向

１　個人利用の動向

入館者数は、前年に比べ 2%減少したが、減少幅は小さくなっている。図書の貸出冊数は、5.1%増加した。図書の貸出冊数増加は、貸出限冊数を 3 冊から 6 冊に増やした平成 14 年を除くと、平成 5 年以来のことである。内訳を見ると、一般図書の伸びは 4.9%、児童図書の伸びが 6.1%であった。ＡＶ資料も前年に比べ 4.1%の増加で、図書とＡＶを合わせた個人貸出点数は、417,586 点で 5.0%の増加であった。

貸出予約の件数は、17.8%の増、リクエストも、購入して対応 31.4%増、借用して対応 34.1%増と大幅に増えている。

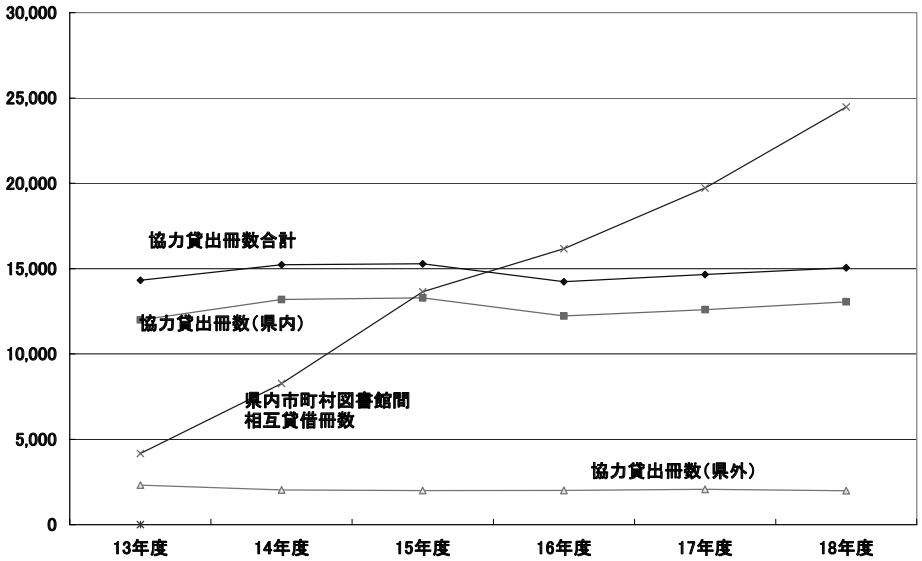
レファレンスの件数は、31,807 件で 11.8%の増加であった。特に電話によるレファレンスが、6,084 件から 7,657 件に 25.8%増えたのが注目される。一昨年の専用電話の設置や様々な広報の効果があがってきたものと思われる。カウンターでのレファレンスは 8.1%の増、メールや手紙での質問は微減であった。

インターネットからのアクセスも、蔵書検索が 13.8%、愛知県内公立図書館横断検索が 19.8%、携帯電話サイトが 41.6%と順調に増えている。

２　協力貸出・相互貸借の動向

（1）協力貸出と県内図書館の相互貸借の動向

平成 18 年度に初めて示した愛知県図書館サービス計画では、特に重点をおいて取り組むサービスの一つとして、市町村立図書館への支援、県域全体へのサービスを掲げ、その達成度の指標として県内の図書館への資料貸出冊数 13,000 冊（前年比 103%）を目標とした。平成 18 年度の県内図書館への貸出冊数は 13,056 冊で前年比 103.7%となり目標を達成することができた。これは昨年 12,036 冊から 11,744 冊に減少した県内市町村図書館及び公民館図書室への貸出が 12,357 冊まで、回復した結果が大きい。反面、大学図書館、学校図書館、その他図書館への貸出は、大学図書館への貸出が昨年度の 52 冊から 109 冊に倍増したものの、846 冊から 699 冊と、17.4%の減少であった。



県外の図書館を含んだ、協力貸出の合計は 15,046 冊であった。県外の図書館への貸出冊数が 17 年度の 2,067 冊から 1,990 冊に減少したため、前年の 14,657 冊に比べ 2.7%の増にとどまった。

また、当館の搬送を利用した市町村図書館間の相互貸借の冊数は 17 年度の 19,721 冊から 18 年度 24,499 冊（24.2%増）と大幅な増加が続いている。

（2）物流ネットワークの充実

大学と公共図書館間の相互貸借の物流を確立する目的で、実証実験として東海地区図書館協議会（愛知、岐阜、三重、静岡の公立図書館と大学図書館の連携協力を目的に平成 16 年に設立）の愛知県内の理事館である、名古屋

大学、名古屋市立大学、南山大学の図書館と愛知県図書館との間で定期搬送便を設定した。これにより従来の物流ネットワークを合わせ利用することで、愛知、岐阜、三重、富山の公立図書館と実証実験参加三大学間の相互貸借が経費負担なしにできるようになった。この実証実験は平成19年度も継続される。

また、物流ネットワークの拡大に向け、石川県立図書館との間で、「相互貸借個別協定」締結の協議を進めている。

3　図書の収集

（1）受入冊数の増加

平成18年度は、合計26,603冊の図書を受入れた。これは、前年に比べ31.4%の増加であり、資料購入予算が比較的潤沢であった平成7～9年頃の受入冊数に匹敵する。和書の購入による受入だけを見ても20,986冊で前年に比べ33.6%増で、やはり平成7～9年の水準になっている。これは、資料購入費が1千万円増加したこと、図書購入価格が競争入札により低くなったこと、予算配分の見直しにより受入価格5千円未満の図書の冊数が増えたことなどによる。

（2）重点収集

前述のように18年度は資料費が1千万円増額された。この使途について館内で検討した結果、18年度は今後のサービス展開の基盤的な資料整備に投入することとした。選定された分野は、①ビジネス情報資料の充実（高額な会社名鑑等）、②少子高齢化に関する資料の充実（子育て、医療、健康、介護関連資料、大活字本）、③多文化サービスコーナーの資料の充実（中国語、ハングル、ポルトガル語資料）、④地域文化の振興と資料保存（愛知県関係近代文学資料の収集）の4点である。

少子高齢化に関する資料については、収集資料により「この小さな手のつかむもの～図書館から子育てを考える」、「手を取りあって進む道～介護・高齢化問題と向き合う」の2回の展示を行った。

（3）資料収集委員会の設置

資料収集の計画、高額資料の選択等については、資料選択会議によってきたが、「愛知県図書館のあり方に関する報告書」や資料選択検討委員会の議論を経て、資料収集委員会を設置することとなった。委員会は、①資料収集方針に関すること、②資料収集計画に関すること、③高額図書等の選択に関すること、などを検討することとし、資料支援課長（委員長）、各グループの職員（原則として司書）各1名によって組織されることになった。

4　変わる図書館・新しいサービス

（1）図書館サービス計画と二つのアンケート調査

18年度は初めての図書館サービス計画の実施年となった。掲げた数値目標については、おおむね達成できた。18年度の評価の詳細については、12ページに掲出した、19年度のサービス計画中で述べているので、ここでは省略する。

また、利用者の方々の図書館利用行動や評価、要望を知るため、17年度からアンケート調査を行っている。18年度は、来館された方々へのアンケートと、新たに市町村図書館職員へのアンケートを行った。アンケートの結果については、10ページに掲出した。

（2）第3期図書館電算システムのリリース

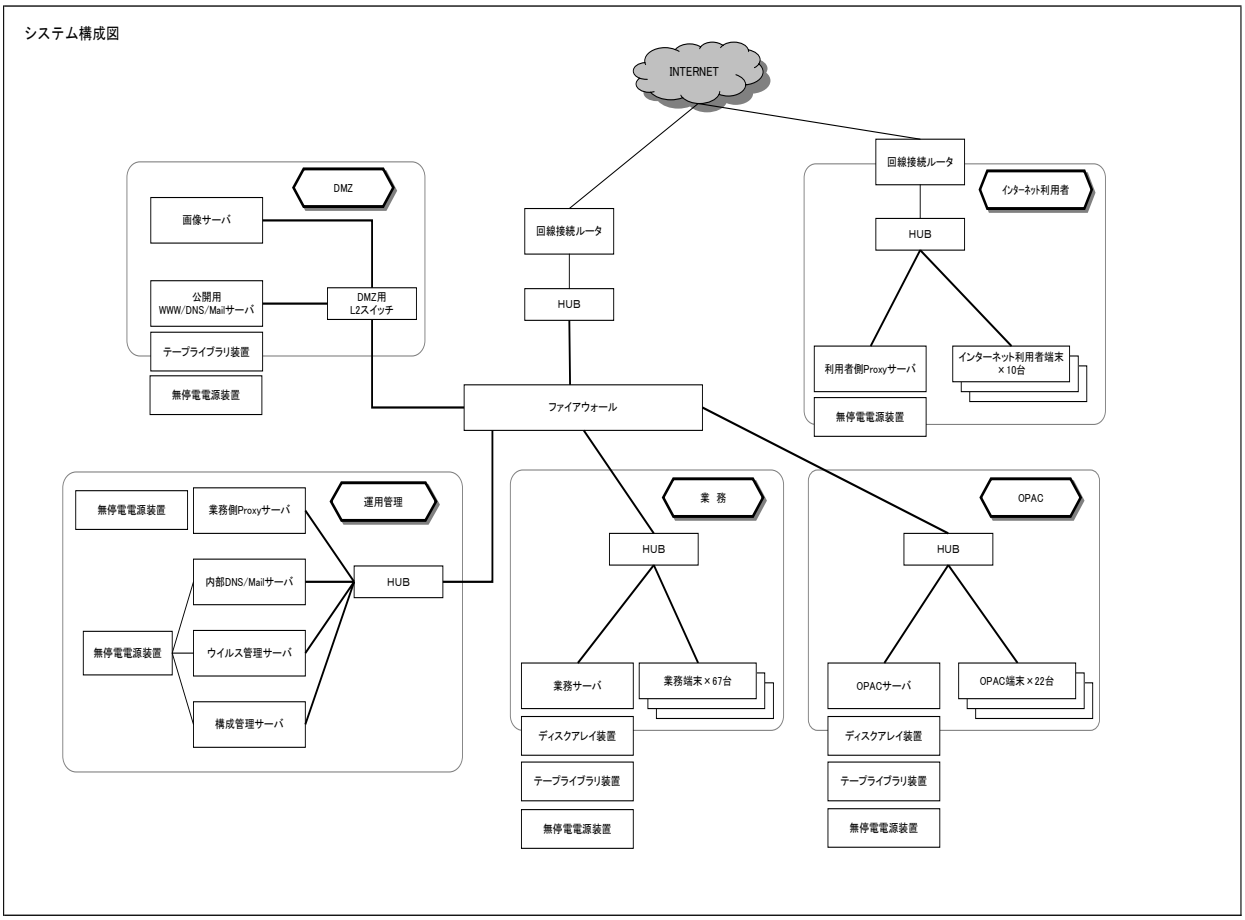
3月第3期電算システムをリリースした。第2期システムは、平成11年10月に使用を開始して、7年以上が経過していた。このため、機器の老朽化、システムの陳腐化、セキュリティの脆弱性などが指摘されていた。

第３期システムは、富士通の公共図書館用パッケージ「ｉＬｉｓｗｉｎｇ２１/ＵＸ＋」を採用したシステムである。今回のシステム更新では、パッケージをできる限りそのまま使い、カスタマイズは最小限とした。

新システムは、旧システムに比べ検索レスポンスが飛躍的に向上した。

また、システムの運用の合理化により、これまでの運用（オペレーティング）委託を取り止め、館内で運用することとした。

なお、このシステムの更新に伴い、図書のＭＡＲＣ（書誌データ）をＴＲＣ（図書館流通センター）Ｕタイプからｔタイプに変更した。この変更によりＭＡＲＣデータの修正が省力化されることになった。



（３）インターネット貸出中図書予約の開始

新しい電算システムでは、インターネット、携帯電話から貸出中図書の予約及び利用状況の確認が行なえるようになった。また、予約確保の連絡を電子メールで送ることもできるようになった。

（４）新聞データベースの拡充

新聞データベースとしては、従来から利用者用に「日経テレコン２１」、「聞蔵（朝日新聞データベース）」、職員レファレンス用に「G-Ｓｅａｒｃｈ」を契約してきたが、18 年度から新たに「中日新聞・東京新聞記事データベース」を契約するとともに、朝日新聞記事データベースについても「聞蔵Ⅱビジュアル・フォーライブラリー」にグレードアップした。

（５）ビジネス情報コーナーの状況

コーナー設置から２年、連日ビジネスマンや学生など多くの利用があり、ビジネス支援サービスが定着し始めている。よく利用されている資料は、企業や業界情報、資格や起業の関連書、プレゼンテーションや発想法などのビ

ジネススキル関連書である。18 年度は高額な会社年鑑や資格試験関連書を重点収集し約 300 冊追加した。19 年 3 月には、ビジネス雑誌のコーナーを増設した。この他２ヶ月ごとにミニ展示「新会社法を学ぶ」「知っていますか内部統制」などを開催、新着図書を紹介した「ビジネス資料ガイド」を毎月発行し、コーナー以外の資料へ結び付けたビジネス支援サービスも展開している。

（6）ティーンズコーナーの状況

コーナー設置から 2 年が経過し、棚が手狭になっていたことから、19 年 3 月にコーナーを 2 倍に拡張した。それに伴い、十代向けの新聞・雑誌を新たに配架するとともに、資料の面置き（表紙を表に向けた並べ方）を多用するなどして魅力的な棚作りに努め、利用促進を図った。（写真）

おすすめ本を紹介する「YA・BOOKS」No.15、No.16 を刊行した。これに加え、平成 18 年 8 月からは、新着本を紹介する「ティーンズコーナーに新しく入った本」（月 1 回発行）の刊行を開始した。

夏休み期間には、旅・冒険をテーマとした本を紹介する、ミニ展示「ここではない、どこかへ」を行った。展示の場所はより目立つ 3 階エレベーター前に設定し、「ティーンズ島」と名付けた。展示の資料は平均して常時50%以上の本が貸出されるなど、活発な利用があった。展示の日程等は 14 ページ実施事業一覧を参照されたい。

平成 18 年度末の資料点数は、和書 3,413 冊、洋書 342 冊、計 3,755 冊と、新聞 3 紙、雑誌 4 誌である。

（7）多文化サービスコーナーの状況

多文化サービスコーナーの本格運用が開始してから 1 年が経過した。コーナーの資料は各国語ともに満遍なく、コンスタントに貸し出されており、利用者の定着が進みつつあるようだ。

開設 1 年目であるコーナーとして、広報と資料の充実に力を入れた。

広報面では、県国際課発行の外国籍県民向けニュースレター、愛知図書館協会の会報、県内発行のポルトガル語フリーペーパーにコーナーがとりあげられた。また、HP 上での利用案内を継続すると同時に、配布用の案内チラシは、図書案内（案内チラシの裏面で新着図書を紹介するもの）を改訂して主な国際交流施設、留学生センター、日本語学校などに配布した。

資料面では、図書数の少ないポルトガル語とハングルを中心に、生活に役立つ実用的な資料、大人や子供が楽しめる最新の文学作品などを約 400 冊受入れ、平成 19 年 3 月現在の図書数は 2,306 冊となった。新聞は、ハングル、中国語の新聞各 1 紙を新たに受入れることが決まり、合計 4 点となった。

（8）学校支援サービス

高等学校への支援サービスを中心に、学校への支援サービスを引き続き実施した。協力貸出冊数は、13 校 579 冊であった。その内訳は高等学校 9 校 503 冊、小学校 4 校 76 冊であり、テーマ単位での貸出申込に対する調査が 38 件あった。また高等学校への講師の派遣を 1 回、図書館ツアーを 1 回実施した。

新しい試みとして、出張ブックトークを開始した。ブックトークとは読者と本を結ぶ技術の一つで、テーマに沿って様々な本を紹介していくものである。18 年度はティーンズコーナー担当が講師となり、依頼のあった県立春日井西高等学校、県立木曽川高等学校の 2 校に出張して「伸びる」と題したブックトークを行った。事前に高校図

書室に関連本を送り、興味の湧いた本を貸出できるようにしたところ、トーク終了後、紹介本などを手に取る生徒の姿が目に付くなど、概ね好評であった。

（9）館内喫煙の禁止

館内での喫煙は、1階喫煙コーナーと5階レストランに限られていたが、いずれも分煙が十分でないため、館内禁煙を求める声が出ていた。このため、3月16日（金）の整理休館日明けから、館内では禁煙とすることとした。

5　図書館のイベント

（1）児童室の取組み（おはなし会）

平成18年度は8日間延べ15回のおはなし会を行った。特に夏休みは、8月1日から5日まで連続5日間延べ10回のおはなし会ウィークを開催した。昨年度から要望があったため、午前を幼児向け、午後を小学生向けに設定した。幼児向けの午前は、絵本、紙芝居、手遊びなどを中心に行い、小学生向けの午後は、クイズや実験を取り入れて、和算や独楽などに関連する図書を紹介するミニブックトークと絵本等の読み聞かせを行った。参加者も一緒に楽しめるおはなし会を目指した。10回で約270名の参加があり、好評であった。その他には、子ども読書の日に1日1回、読書週間中に1日2回、冬休み中に1日2回のおはなし会を行い、全体の延べ参加人数は約400名であった。

（2）図書館探検ツアー

図書館のバックステージツアーを3回実施した。平成18年8月10日（木）は小学校1～3年生を、8月25日（金）は小学校4年生から中学生を、11月11日（土）は高校生以上を対象に実施した。中高校生の応募はなかったが、同伴の保護者を含め合計65名が参加した。

（3）あいち子ども芸術大学

県では、次代を担う子どもを対象に、第一線で活躍する芸術家との交流・共同作業を通じて優れた文化芸術に触れ合うことを目的とした「あいち子ども芸術大学」を18年度に初めて実施し，県内各地で32の文化芸術体験講座が開催された。

図書館では、造本作家・デザイナーの駒形克己氏を講師に、切り紙絵本を製作するワークショップ「ひとつがふたつ」を実施。小学3～4年生とその保護者51組102名が参加した。（写真）

（4）全国読書フェスティバル愛知大会

平成19年1月13日（土）に文科省、教育委員会、子どもの読書推進会議主催による「全国読書フェスティバル愛知大会」がウィルあいちで開催された。図書館は、名古屋市図書館共同で、絵本・児童書の展示を行った。ミニお話し会やおりがみなども行い、多くの参加者があり、大変好評だった。

（5）企画展示